

ステントリンク部分が Kissing balloon technique に及ぼす影響の検証

＜目的＞1stent+KBT におけるステントリンク数の違いによる側枝入口部のストラット開大と側枝血管分岐部対側のストラット圧着状態を光干渉断層診断 (OFDI) の 3D 解析機能を用いて検証したので報告する。＜方法＞血管分岐部モデルの内径は、主幹部 4mm、本幹と側枝がそれぞれ 3mm であり、2 リンクと 3 リンクのステントを使用した。主幹部から本幹にステントを留置し、ガイドワイヤーリクロス部位をステントストラットの最も末梢側群 (2 リンク 3 例 vs 3 リンク 2 例)、1 ストラット中枢側群 (2 リンク 3 例 vs 3 リンク 1 例) とし、本幹と側枝に 3.0mm 径のバルーンで KBT を 6 気圧で行い、KBT 後のステント形状の評価を OFDI にて行った。＜結果＞KBT 後、側枝入口部のステントストラットの開大が良好であったのは、ガイドワイヤーリクロスが最も末梢側群と 2 リンクの 1 ストラット中枢側の 1 例であり、その他はステントリンク部分が側枝入口部に遺残した。側枝血管分岐部対側のストラットの圧着は、全て不良であり、再度 KBT の際に側枝を 14 気圧で拡張すると 2 リンクのみ圧着可能であった。＜考察＞2 リンクに比べ、3 リンクのステントでは、側枝入口部にステントリンクがかかりやすく、KBT の際に拡張制限部位になりやすい。また側枝の内腔径が 3mm 以上の場合では、側枝血管分岐部対側のストラット圧着不良を起こしやすい構造にあると考えられる。＜結語＞1stent+KBT において、2 リンクのステントが良好な側枝入口部のストラット開大と側枝血管分岐部対側のストラット圧着が得られる可能性が高いと示唆された。